

## 最新のエビデンスに基づく糖尿病治療の実践

患者さん各々の生活環境、社会的背景に配慮した、きめの細かい食事療法、運動療法、薬物療法を実施するために、患者さん中心のチーム医療(医師、管理栄養士、看護師、薬剤師、健康運動療法士)を実践しています。

### 診療体制

糖尿病学会認定指導医および専門医14人が中心となって一般外来を担当しています。「糖尿病・膵島外来」では、臓器移植医療部と連携し膵島移植レシピエントの候補者の移植に向けた確かな病態評価を実施しています。

### 対象疾患

糖尿病(1型、2型、遺伝子異常による糖尿病、膵性糖尿病、肝疾患に伴う糖尿病、内分泌疾患に伴う糖尿病、薬剤性糖尿病、および妊娠糖尿病)、栄養疾患(肥満症、消化吸収障害)、糖尿病に伴う慢性合併症など。

### 診療、研究実績

#### 一般的な診療についての実績

的確な病態評価に基づいて臨床栄養学的アプローチ重視の治療を実施しています。外来患者は年間約27,000名、入院患者は年間約350名。糖尿病・栄養教室に年間約3,000名が参加、療養に必要な知識を効果的に修得しています。

#### 高度医療の取り組み・研究

##### ①膵島移植・膵臓移植

臓器移植医療部と連携し膵島移植、膵臓移植の推進にあたり、とくに周術期におけるさらに厳格な血糖値コントロールを目指して、連続式グルコース測定などの機器導入を積極的に進めています。

##### ②臨床治験

2型糖尿病に対する臨床治験(サクサグリブチン、SK-0403など)を他施設と共同で実施中です。

##### ③臨床研究

シタグリブチン長期投与による日本人2型糖尿病患者のインスリン分泌能の改善効果の検討(MAIKO study)を他施設と共同で実施中です。

##### ④厚生省主導の戦略的アウトカム研究

2型糖尿病患者対象に血管合併症抑制のための強化療法と従来療法のランダム化比較研究(J-DOIT3)を実施中です。



## 新しい救急医療のシステムを求めて

各診療科・診療部門の「扇の要」として、高度先進医療・専門医療が可能な大学病院の特長を生かした、質の高い救急医療の提供を目指しています。

### 診療体制

- ①救急部専従スタッフが11名在籍し、24時間365日体制で救急車搬送・急患対応が可能な体制を整えています。
- ②各診療科・診療部門との密接な協力体制のもと、極めて高度もしくは専門性の高い診療を緊急で行っていくことが可能となっています。

### 対象疾患

各診療科・診療部門との連携のもと、内因性・外因性を問わず、あらゆる病態に緊急で対応することが可能となっています。

### 診療、研究実績

#### 一般的な診療についての実績

年間救急外来受診者数約9,000人～10,000人、救急車搬送台数2,500台以上、救急外来からの緊急入院患者数約1,900～2,000人。

#### 高度医療の取り組み・研究

##### ①災害医療への貢献

DMAT(厚生労働省管轄の災害医療派遣チーム)に正式参加し、地域での災害時医療の遂行に指導的役割を果たしています。

##### ②高度救急医療プロジェクト

周産期合併症・脳血管障害・熱傷・CO中毒への高圧酸素療法・重症/新興感染症など、多くの高度救急医療プロジェクトを立ち上げています。

##### ③外傷性軽度脳損傷後の認知機能障害の発生頻度およびその発生規定因子に対する研究

精神科神経科と共同で、外傷性軽度脳損傷により、どれくらいの頻度で、どのように認知機能の低下が生じるのかについての研究を行っています。

